



医療法人 あかね会

土谷総合病院
Tsuchiya General Hospital

地域医療連携室だより

No.47
2026.01



ご挨拶

院長 土谷 治子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素より当院の診療と運営に格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。2026年は干支で丙午（ひのえうま）。陽の気が満ち、物事を力強く前へ押し進める年回りとされます。この機運を追い風に、地域に根差した医療の質を一段と高めてまいります。

まず、2025年の歩みをご報告いたします。4月に泌尿器科を新設し、6月からは手術支援ロボット da Vinci Xi（ダ・ヴィンチXi）による前立腺手術を開始。広島大学泌尿器科のご協力のもと、11月末までに10例を安全に完遂し、低侵襲・早期回復をめざす治療選択の幅が着実に広がりました。

心臓血管外科でも11月より da Vinci Xi を用いた手術が始動。循環器内科、麻酔科、コメディカルと連携するハートチームが、創の縮小や周術期負担の軽減を志向した高水準の治療提供に取り組んでいます。

地域への発信と人材育成にも注力しました。あかね会としてフラワーフェスティバル、企業対抗リレーマラソンに参画し、11月には RCC中国放送アナウンサー 田村友里 さんをお招きして講演会を開催。学生をはじめ幅広い世代の皆さまに医療・介護の現場を身近に感じていただく機会となり、将来の担い手づくりと医療理解の裾野拡大に確かな手応えを得ています。



2026年は、紹介・逆紹介の適正化、入退院支援の迅速化、多職種カンファレンスの定着、データに基づく医療の標準化をさらに前進させ、患者さんにとっての最短・最適の治療経路を徹底して追究していきます。災害時医療や地域包括ケアとの連携も怠らず、地域の安心を確かな技術と温かなケアで守り抜く所存です。

丙午の勢いにあやかり、確かな臨床力と連携力で地域の健康を支える——その決意をここに新たにいたしました。本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝とご多幸を心より祈念いたします。



産婦人科

医長 鍵元 淳子

新年あけましておめでとうございます。日頃からご支援頂き、誠にありがとうございます。現在、4名の常勤、3名の非常勤医師で診療を行っています。

産科では、循環器疾患・内分泌疾患（糖尿病、甲状腺疾患）、腎疾患などの合併症妊娠、また多胎妊娠、肥満などのハイリスク妊娠の管理を引き続き行っています。また、小児科と協力し、胎児心疾患、妊娠30週以降の早産にも対応しています。毎週金曜日には、遺伝カウンセリング外来を行っています。

婦人科では、低侵襲治療として、子宮鏡下手術、子宮動脈塞栓術を行っています。2022年から導入したシェーバー式子宮鏡下手術は、2025年400例となりました。子宮内膜ポリープに対してのシェーバー式子宮鏡下手術は、患者様のご希望が多い、日帰り手術が可能となっています。子宮鏡検査も外来で多く行っております。不正出血や不妊症の方など検査だけでも紹介いただければ、と思います。また、過多月経、月経困難症でお困りの子宮筋腫の方で、手術以外の治療を希望される方には、放射線科医師と協力し、子宮動脈塞栓術を行っています。子宮動脈塞栓術は3泊4日の入院で行っており、こちらも日常生活への復帰が早い治療となっています。

上記疾患他にも、できる限り対応させて頂きますので、お困りの患者様がおられましたら、是非ご連絡ください。

今後も地域医療に貢献できるよう、努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



@TSUCHIYA_OBGYN



産婦人科
Instagramアカウント



写真左より 土谷医師、金子医師、道方医師、鍵元医師、原医師、吉本医師、保谷医師

皮膚科

医長 天野 愛純香

新年あけましておめでとうございます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当科外来では、湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、皮膚腫瘍、外傷、皮膚感染症など、幅広い皮膚疾患に対応しております。特に、下肢虚血やうっ滞性潰瘍などの難治性潰瘍症例を多く診療しており、SPP（皮膚組織還流圧）検査による血流評価や陰圧閉鎖療法（NPWT）などを用いた包括的な創傷治療を行っています。

また、2023年に発売された日本初のヒト羊膜使用組織治癒促進用材料「エピフィックス®」を引き続き導入しており、糖尿病性足潰瘍やうっ滞性皮膚潰瘍などに対して良好な治療効果を経験しています。必要時は他科と連携しながら、最適な治療を提供してまいります。

さらに、当科は生物学的製剤使用認定施設となり、アトピー性皮膚炎に対するデュピクセント®（デュピルマブ）の導入を開始いたしました。中等症から重症のアトピー性皮膚炎に対して、新たな治療選択肢を提供できる体制を整えております。

手術面では、顔面など皮膚の薄い部位の粉瘤に対し、4～5mm程度の小さな創部で行うくり抜き法による手術を実施しており、整容面にも配慮した低侵襲な手術として患者さまからも良好な反応をいただいております。

総合病院皮膚科として、今後も地域の皆さまに信頼される医療を提供できるよう努めてまいります。本年もご支援ご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

心臓血管外科

副院長・外科診療部長
心臓血管外科主任部長 山田 和紀

新年、明けましておめでとうございます。先生方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当科では、新生児から超高齢者まで心臓血管外科で扱う全ての分野に対応しており、直近の1年間では、①弁膜症(TAVIを除く) 76例、②虚血性心疾患 38例、③大血管疾患 141例(うち急性大動脈解離が48例)、④先天性心疾患 30例、⑤末梢血管疾患 303例(うちカテーテル治療が237例)の手術を行うことができました。これも日ごろからの先生方の多大なご支援あつてのことと存じます。篤く御礼申し上げます。

当科ではこれまでも低侵襲心臓手術(MICS)に取り組んでまいりました。従来の胸骨正中切開からの手術と異なり、側胸壁(弁膜症では右側)に7cm前後の傷をおいて肋間から手術を行うことで、出血量を抑え、感染のリスクを低減させることができ、早期のリハビリや社会復帰も可能となります。さらに女性の場合は皮膚切開の位置を工夫することで美容上の利点もあります。

このMICSをさらに進めるべく一昨年からロボット心臓手術の準備を進めてまいりました。昨今ロボット手術は多くの外科系診療科で広く行われるようになっていますが、こと心臓については認定施設がまだ全国で50に満たない状況です。当院は昨年その施設認定を受け、11月に第1例目のロボット心臓手術として、手術支援ロボットDa Vinci Xiによる僧帽弁形成術を無事行うことができました。

今年はロボット手術が軌道に乗るとともに、そのほかの治療についても最先端の医療技術を提供していけるよう一層の努力を重ねてまいります所存です。

麻酔科や手術室との連携の下、複数の手術の同時進行が可能な体制が取れており、緊急手術などの紹介についても全てに対応できるよう努めてまいりますので、今年も昨年に増してご支援ご指導をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



写真後列左より 小畑医師、前田医師、北浦医師
写真前列左より 友田医師、古川医師、山田医師、望月(慎)医師



手術支援ロボットDa Vinci Xi

腎・血液浄化療法科

主任部長 新宅 究典

新年あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

当科は、慢性腎臓病、急性腎不全、末期腎不全などの幅広い腎疾患を対象に、外科医・腎臓内科医が共同して検査、治療を行っております。また、慢性腎臓病教室や腎代替療法外来など、医師、看護師、栄養士などの多職種で、患者様、ご家族の皆様とともに日常生活、治療の方向性の決定などにあたらせていただいております。

また、血液透析患者様に対し、昨年度は約100例の内シャント手術の他に、1200例を超える経皮的シャント拡張術(PTA)を行いました。PTAにおいても疼痛対策として伝達麻酔を導入することにより、疼痛の軽減をはかることができ、患者様より高評価を頂いております。中心静脈狭窄に関しましては、放射線科と連携し治療困難症例の対応をさせて頂いております。重症下肢虚血については、心臓血管外科、放射線科、皮膚科と連携し、経皮的血管拡張術や吸着式浄化療法を続けております。

本年も地域の方々に高いレベルの医療を提供できるよう精進いたしますので、何卒、ご支援ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

泌尿器科

部長 岩本 秀雄

新春を迎え、皆さまには益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より当院の地域医療連携にご理解・ご協力を賜り、貴重な症例をご紹介頂き心より御礼申し上げます。

昨年の泌尿器科開設より半年が経過し、地域の皆様から多くのご紹介をいただき、徐々に診療体制も軌道に乗ってまいりました。尿路悪性腫瘍(前立腺癌、腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌など)、排尿障害(前立腺肥大症、過活動膀胱、尿失禁など)、尿路感染症(腎盂腎炎、膀胱炎など)、尿路結石症など幅広い分野に対応し、外来・入院ともに円滑な受け入れが可能となってきております。引き続き、患者さまに寄り添った丁寧な診療を重ねてまいります。

また、この度、当科では内視鏡手術支援ロボット「da Vinci Xi」によるロボット支援下前立腺全摘除術を令和7年6月より開始しており、現在まで11例を行っております。da Vinci Xiによる精緻な手術操作により、出血量の減少、術後疼痛の軽減、入院期間短縮、さらには術後の尿失禁や性機能障害の抑制など、患者さまの生活の質に配慮した治療が期待されます。泌尿器科・麻酔科・看護部など多職種が連携し、安全性と患者さまの生活の質向上を重視した治療提供に努めております。

今後とも、地域とともに歩む医療の実現を目指し努力してまいりますので、変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様の一年が健やかで実り多いものとなりますよう心よりお祈り申し上げます。

呼吸器内科

副部長 水本 正

新年明けましておめでとうございます。

昨年は細菌性肺炎、胸膜炎、膿胸などの感染症疾患、喘息、COPD、間質性肺炎などの慢性呼吸器疾患、胸部異常陰影、労作時呼吸困難や長引く咳嗽など、外来、入院にて幅広く診療させていただきました。

また、昨年秋より当院リハビリテーション科とともに呼吸器リハビリテーションを始めることとなりました。まだ入院での導入のみですが、呼吸器リハビリテーション、栄養指導、生活指導、呼吸器的精査などを4-5日程度で行う教育入院も試験的に行っております。慢性呼吸器疾患をお持ちの患者さんで、徐々に体重減少、筋力低下が進行することによりADL低下や呼吸器症状が悪化しているような方が居られましたら当院呼吸器内科へのご紹介を検討いただければ幸いです。

本年もよろしくお願いいたします。

整形外科

部長 蜂須賀 裕己

新年明けましておめでとうございます。

いつも貴重な症例をご紹介します各病院、クリニックの先生方には御礼申し上げます。

当科の伝統である手外科・微小外科・肘関節外科分野では救急外傷や難治症例を紹介して頂き、誠にありがとうございます。昨年当科では臨床面では手への足趾移植や関節再建・母指対立再建といった特殊な手術を施行し、学術面では三冊目の分担執筆教科書が出版されました。これからも世界レベルの手外科・微小外科手術を患者さんに提供し、地域医療に貢献させて頂きたく存じます。

膝・足関節外科の専門外来では奥原副部長が高度な下肢外傷、膝関節・足関節外科の診療を行っています。変形性膝関節症に対する人工膝関節全置換術はもちろん、出来るだけ自分の体・関節を温存したいという患者さんに対しては単顆型人工膝関節置換術、脛骨骨切り術などの骨温存術も行っています。また、スポーツ愛好者に多い靱帯・半月板損傷に対しては関節鏡を使って治療しています。

上下肢の外傷、スポーツ障害、神経障害、関節リウマチ、先天性疾患、加齢性変性疾患、造形手術、難治性偽関節手術、機能再建手術に積極的に対応していきます。何卒ご紹介のほどよろしくお願い致します。

救急・緊急手術や、心臓・腎疾患既往のある整形外傷、整形外科手術後のリハビリテーション入院の患者さんも積極的に受け入れる努力を行っています。スタッフ数の問題で受け入れや受診が滞ることもあり、誠に御迷惑をおかけして申し訳ありません。引き続き鋭意努力して参りますので、もしお困りの症例がございましたら是非ご相談下さい。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



写真左より 奥原医師、蜂須賀医師、高橋医師
(高橋先生は旭川医科大学からの手外科研修生です)

小児科

副部長 浦山 耕太郎

平素より各地域の先生方におかれましては、いつも患者さまをご紹介頂き心より感謝申し上げます。現在、小児科医3名(浦山、森田、熊谷)で、循環器疾患、新生児医療を中心とした診療を行っています。

昨年、日本の出生数が初めて70万人を下回りました。国の推定よりも早いスピードで少子化が進んでいると言われています。小児科医の仕事や役割は以前より減るのではないかと、思われるかもしれません。もちろん、その影響がないとは言えません。しかし、医療の進歩により先天性心疾患の患者さんが成人を迎えられ、我々小児科医も成人科と協力しながら、「成人先天性心疾患」の患者さんを診療しています。比較的患者数の多い、ファロー四徴症は術後遠隔期に肺動脈弁逆流が問題となることがあります。自覚症状が乏しいため、通院を中断されていたり、「根治術」という認識をされていることも珍しくなく、職場の健診や妊娠を契機に当科へ相談頂くことが近年増えてきました。まずは心臓MRIで右室容積や肺動脈弁逆流率を算出し、治療介入の必要性を検討しています。肺動脈弁置換が必要と判断した場合、外科手術以外にカテーテルによる治療も選択肢としてあがります。当院ではカテーテル治療は行っていないが、必要に応じて治療可能な施設へ連携を取っています。肺動脈弁逆流の残存されている患者さまがおられましたら、お気軽にご相談頂ければ幸いです。

今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

循環器内科

副院長・内科診療部長
循環器内科主任部長 村岡 裕司
不整脈センター長

新春の候、貴院におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より当院循環器内科の診療に格別のご高配とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

心房細動アブレーションの領域においてパルスフィールドアブレーション（PFA）を導入して約一年が経過し、安定した治療成績を示すことができました。従来のアブレーション法に比べて手技がシンプルであることから術時間の短縮が得られ患者様の身体への負担が軽減しています。また熱を利用しないアブレーションのため食道など心臓周囲の構造への影響がほとんどないことから安全性が改善しています。2025年の当科におけるアブレーション施行症例数は前年と比較し30%増加しました。さらに、新たに左心耳閉鎖デバイス（Watchman）を導入し、抗凝固療法の適応が難しい症例の脳卒中予防を含め、より包括的な心房細動の管理が可能となりました。

また、虚血性心疾患に対するカテーテル治療件数も着実に増加し、心臓リハビリの実施数も前年比4割増で推移しており、地域の循環器診療のニーズに応える体制が一層整いつつあります。

本年も引き続き、地域の先生方との連携を大切にしながら、より安全で質の高い医療の提供に努めてまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、貴院のご発展と先生方のご健勝を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



@TSUCHIYA_CARDIOLOGY



循環器内科
Instagramアカウント

消化器内科

医長 江木 康夫

新年明けましておめでとうございます。各病院及び医院の先生方におかれましては、いつも貴重な患者様をご紹介いただき厚く御礼申し上げます。私は昨年4月より土谷総合病院へ赴任してまいりました。この9カ月間に様々な患者様を診させていただきましたが、抗血栓薬内服に伴う消化管出血には治療に難渋する症例もあることを改めて痛感しております。

昨年度より肝臓内科医1名・消化管内科医2名の計3名体制で診療に携わっております。

肝臓内科としては、院内の多職種で構成する「肝疾患お助け隊」を結成し、肝臓病教室、院内B・C型肝炎ウイルス感染症の拾い上げ、脂肪肝対策、サルコペニア対策などに取り組んでおります。また昨年は広島県の肝疾患コーディネーターの啓発活動の一環としてマツダスタジアムでCCダンスを踊ったり、無印良品さんとのコラボレーション企画にてアルパークで活動などしております。

消化管内科としては、主に上部及び大腸内視鏡検査に携わっております。上部は月に142症例程度、大腸は66症例程度行なっております。「OLYMPUS社製 EVIS XI」の内視鏡システムを使用し、悪性病変をはじめ、様々な疾患の発見及び治療に努めております。また消化管出血に対しては緊急内視鏡による止血治療を、イレウスに対してはイレウス管留置を、誤嚥性肺炎を繰り返される方に対しては内視鏡胃瘻造設などを行なっております。

今年度は肝臓内科医の退任予定などもあり、診療体制の変更もあるかと存じます。諸先生方にご迷惑をおかけするかと存じますが、引き続きご指導・ご鞭撻のようしくお願い申し上げます。

外科

新年にあたりご挨拶を申し上げますとともに、スタッフの紹介をさせていただきます。

甲状腺がんや消化器がん、胆石症・腹部ヘルニア等の手術を主に行っております。地域に根ざす中核病院として患者さん中心の医療を、チーム一丸となって推し進め努力して参ります。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



外科顧問
杉野 圭三

土谷総合病院における甲状腺疾患の診療は非常勤医の川口康夫先生（川口クリニック）、楠部潤子先生（なんぶ甲状腺クリニック）、小生の甲状腺師匠でもある武市宜雄先生（武市クリニック）、近隣の甲状腺を専門に診療される先生方との病診連携により順調に発展しています。

2025年度の甲状腺手術総数は約220例でした。甲状腺外科を担当する医師達（川崎由香里、佐藤幸毅）の手術手技も年々向上し、東京、神戸、九州の甲状腺専門病院と比較しても遜色ない熟練したレベルに達したと客観的に（仲間ボメでなく？）評価しています。

小生も後輩達に追い越されないように、診断・手術技能の向上を日夜、夜も寝ず（朝早く目覚めるようになったのですがー）目指しています。

新年明けましておめでとうございます。

一般外科・消化器外科の症例を主に担当しており、上部および下部の消化器がんや胆石・ヘルニア・痔疾患等の症例が中心です。循環器疾患や腎疾患の症例を積極的に受け入れている当院の特色から、心機能・腎機能が大きく低下した患者様の周術期管理に当科のアドバンテージがあると言えます。現在、周術期のリハビリ体制の強化をすすめており、コメディカル・パラメディカル含めてスタッフ一丸となって患者様やそ

のご家族にご満足いただける医療を目指しております。
医療連携の基本はスタッフ同士の信頼関係であると認識し、これまで以上に地域医療に貢献できるように努力してまいりますので、今後とも甲状腺外科同様に一般外科・消化器外科をどうぞよろしくお願い申し上げます。

主任部長 西原 雅浩



甲状腺腫瘍の精査、バセドウ病、原発性副甲状腺機能亢進症など、内科・外科の境界領域にある疾患についても迅速な診断と安全で負担の少ない質の高いチーム医療の提供を心掛けております。疑問点や診療上お困りのことがございましたら些細なことでも遠慮なくご相談ください。

副部長 川崎 由香里

土谷総合病院外科の佐藤です。広島大学大学院を修了後、当院に勤務して丸3年が経ちました。この間、県内外の先生方より多くの甲状腺疾患をご紹介いただき、心より御礼申し上げます。3年間の甲状腺・副甲状腺手術を術者として計318症例経験することができました。これもひとえに、日頃より温かいご支援を賜っている先生方のおかげであり、引き続き研鑽を重ねてまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

医長 佐藤 幸毅



内分泌内科

医長 渡邊 浩

新年あけましておめでとうございます。

当科では糖尿病専門医、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師、看護師がチームを組んで糖尿病の治療を行っています。このうち19名が日本糖尿病療養指導士の資格を有しています。

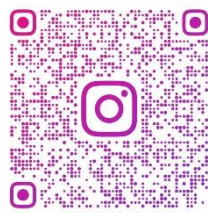
糖尿病教育入院後5年間の血糖コントロールに与える効果を検証した国内の研究によれば、全体(180例)のうち、多くは平均HbA1c値が悪化することなく7%台を維持できていました。また、44%の患者は平均HbA1c 6.9%未満に維持できしており、体重の増加率やインスリン増加量が少なく、合併症の進行率も低い等良好な経過をたどっています。なお、こうした長期的効果を維持できている患者の多くは、過去に糖尿病治療がなく、罹病期間が短い傾向にあったことも判明しています。

当科が行っている糖尿病教育入院は1週間の教育入院で日本糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフがそれぞれの専門性を生かし丁寧に説明します。また皮膚科、眼科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、整形外科との連携のもと糖尿病合併症の精査も行っております。教育入院中に、希望されれば、自己血糖測定、インスリン手技も指導しております。

初めて糖尿病と診断され糖尿病の知識がない、内服やインスリンで糖尿病治療を行っているにもかかわらず、食事療法や運動療法が実施できず生活習慣に乱れがあるため、血糖コントロールが不十分、合併症が進行してきている等でお困りでしたら当院での教育入院を勧めて頂ければ幸いです。よろしくお願いいたします。

Instagram開設のお知らせ

医療法人あかね会・土谷総合病院グループの採用Instagramアカウントを開設しました！法人内での取り組みや職員の活躍、採用情報など、より多くの方に知ってもらえるよう様々なコンテンツを発信していきます。ぜひフォローして、最新情報をご覧ください。



@AKANEKAI_TSUCHIYA

＼フォローお願いします♪／

◆各教室のご案内

疾患を持つ方とご家族、又は興味のある方ならどなたでも参加できます。

お問い合わせ：☎ 082-243-9191 までご連絡ください。

参加費：無料

教室名/時間	月日		内容	担当
心臓病教室 14:00～(30分程度) 5階 心臓リハビリテーション室	1/5	月	採血結果をのぞいてみよう	検査技師
	2/2		いざという時のために	看護師
慢性腎臓病教室 14:30～ (40分程度) 8階会議室	1/7	水	生活習慣病・動脈硬化・認知症	内分泌内科医師
	2/4		しっかり体を動かしましょう2(仮) ～腎臓リハビリテーション～	理学療法士
			あなたの足を守りましょう(仮) ～自宅で行うフットケアのポイント～	皮膚・排泄ケア 認定看護師
			あなたの食生活を豊かにするために(仮) ～外食・中食(なかしょく)について～	管理栄養士
	3/4		あなたの体を整えるお薬の話2(仮) ～腎臓病と透析のお話～	薬剤師